ミンガラバーMJET News Letter
mjet
13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com

ミャンマーにクーデター発生

2 月 1 日、国軍が突如クーデターを起こし、全権を掌握しました。昨年 11 月 7 日の総選挙において、アウンサンスーチー率いる国民民主連盟（NLD）が大勝を収めたことから、これに対して国軍 OB の USDP 党と国軍が「選挙に不正があった」と選挙管理委員会および NLD に対して異議を申し立てしていました。選挙管理委員会と NLD は共に「選挙に不正はなかった」としてこの異議申し立てを拒否していました。

国軍は、選挙管理委員会の入れ替え、不正疑惑の調査、そして調査結果公表までの連邦議会開催の延期の 3 つを要求し、NLD と水面下で秘密交渉をしていたが、1 月 31 日に決裂したといわれています。2 月 1 日、総選挙で選ばれた国会議員が全員国会に登院して、最初の議会が開催されることになっていたため、全国会議員がネピドーに集合していました。国軍は、この日を定めて、クーデターを決行し、「非常事態」を宣言し、ミンウイン大統領、アウンサンスーチー国家顧問および NLD の幹部党員多数が拘束されました。

このクーデターは事前に十分準備された模様で、「非常事態」は国軍出身副大統領のミン・スエ副大統領を大統領代行に任命して発令され、国軍は直ちに「国家統治評議会」を設置して次々に必要な法令を発し、また、行政続行のための「国家行政評議会」を組織して、閣僚 16 名の半数を Tin Sein 政権の閣僚や行政官幹部を大臣に任命して経済政策は変更がないことをアピールしました。

KYODONEWS 2 月 17 日（スーレーパゴダ通り）

© Sai Aung Main / AFP

クーデターに対する激しい抗議

クーデターに対して、広範な国民からの激しい抗議運動が起きています。クーデター発表直後は、国民は何が起きたのかわからず、やや呆然とした状態が数日続きました。人々は午後 8 時頃から鍋やヤカンを一斉に叩いて大きな抗議の姿勢を示しましたが、2 月 4 日からは、市民が表通りに出て抗議のデモ行進をするようになりました。

このデモ行進は、日々参加者が増大し、数万人、数十万人、百万人、数百万人へと一気に増大していきました。

(c)STR / AFP

(c)Sai Aung Main/AFP

抗議のデモ行進は、ヤンゴンのみならず、マンダレー、ネピドー、モニュワ、モールミャイン、ダウエイ、ミッチーナとミャンマー全国に広がっています。デモ隊は学生、公務員、僧侶、一般市民、商店主を含む国民のあらゆる層の人々を包含しています。参加者は口々に「総選挙結果を尊重せよ」「民主主義を守れ」と叫んでいます。これといったリーダーはいないようですが、公務員の人達が「Civil Disobedience Movement」(CDM)を叫び市民的不服従運動をリードしています。

(c)STR / AFP

(c)YE AUNG THU / AFP

今のところ、警察部隊が全面に出ており、国軍の部隊は後方に位置しているように見受けられます。2 月下旬から警察部隊はデモ隊に対して発砲するようになり、死傷者が増えています。このような状態が続けばいずれ多数の死傷を伴う犠牲者がでてくるものと思われます。

ミャンマーのチョー・モー・トゥン国連大使は、2 月 26 日の国連総会において、ミャンマーの民主主義復活に向け、「ミャンマー軍に対し行動を起こすため、あらゆる手段を使うべきだ」と訴えました。他方、ASEAN のインドネシア、シンガポール、マレーシア等の国々は、ミャンマーの現状を憂い、何らかの調停工作が必要であると、解決策を探っています。

現在の対立が続くと経済はマヒし、海外からの投資も逃避したりする危険が大きくなりそうです。一刻も早く、何らかの調停が実施されて、和解が成立することを願ってやみません。

ミンガラバーMJET News Letter
mjet
13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com

バガン地域でも反クーデター運動

2 月 4 日以降、ミャンマー全国に広がった反クーデター運動は、中旬にはバガン地方にも波及し、世界遺産の遺跡の周りを大勢の若者や医療従事者を含む公務員の人達がデモ行進しました。

(c)STR / AFP

(c)STR / AFP

(c)STR / AFP

ミャンマーのコロナ感染症の状況

コロナ感染症は世界中に流行したパンデミックとなり、3 月 4 日現在、1 億 1 千 502 万人が罹患し、255 万人が死亡しています。

アジアではインドを除いて、比較的感染者数が少なく、良くコントロールされてきました。台湾、ベトナム、韓国はとりわけ感染初期から政府の対策が功を奏して、称賛されています。

ミャンマーでは、第一波の 4 月から 7 月までは市中の感染対策と国境の水際対策が功を奏し、感染者は主に海外からの帰国者に限られていました。しかしながら、8 月下旬からラカイン州からの感染者数が急増し、これがヤンゴン等の都市部に急速に拡大しました。9 月 21 日にはヤンゴン管区全域の一部業種を除く全産業を対象とする出勤停止（自宅待機）の命令が出されました。

8 月下旬までは、1 日に二桁代に抑えられていたのが、8 月 26 日に 100 人を超え、10 月 1 日には 1000 人以上を記録し、10 月 10 日には 2000 人を超えました。8 月末までの累積感染者数は 887 人であったものが、10 月末には 52,706 人になり、2 カ月で 60 倍を超える勢いで増加しました。10 月 6 日には全ての州・管区・連邦直轄区域でコロナ感染者が確認されました。このため、学校と大学が閉鎖されました。そして、3 月 4 日現在では、14 万人が罹患し、3200 人が死亡しています。（日本経済新聞）

9 月 21 日には、ヤンゴン管区全域（離島を除く）を対象とする外出禁止令が発表されました。政府の命令により出勤できない労働者に対する救済措置として、給与の 40%を現金給付する措置がとられました。給付は 10 月 5 日から開始され 10 月 9 日までに 33,802 名が受給したそうです。

2021 年に入ってからはミャンマーのコロナ感染者数は徐々に減少してきましたが、依然として厳しい厳戒態勢が敷かれており、日本からの ANA 直行便も休止しています。

2 月 1 日の国軍のクーデターにより、公務員の不服従運動（CDM）が開始されたため、毎日のコロナ感染者数は発表されなくなりました。大規模な反クーデター運動の展開により、コロナ感染症の広がりも心配されています。

2020 年度の植林ツアーを中止

日本とミャンマー両国のコロナ感染の増大状況に鑑みて、8 月下旬に実施を予定していた MJET の 2020 年度の植林ツアーは、中止することに決定しました。

これまでに植林募金にご応募いただいた方々の記念の森は 2021 年度の植林ツアーで実施したいと考えています。

ミンガラバーMJET News Letter
mjet
13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com

第1回 MJET 学生部日緬交流会議

8月 30 日、学生部（石川部長）では、ヤンゴン大学のパートナー学生チーム「MEC チームオーロラ」のメンバーと zoom を活用してオンライン交流会を実施しました。

ミャンマー側の学生とはじめての顔合わせだったため、自己紹介や軽い懇談をしたあと、日本とミャンマーのコロナ事情について、代表の学生が発表しました。両国のコロナウィルスに伴う対応や大学生活の変化などについて、発表を通じて学んだあとは、複数のグループに分かれ経済や社会事情に関するディスカッションを実施しました。

ディスカッションでは、ミャンマー側の状況を生の声で聞くことができて大変有意義でした。ミャンマー側の学生からは「オンライン技術が整っていないため、大学が開校せず卒業時期が１年伸びてしまう」といった悩みの声も聞こえてきましたが、「コロナウィルスで職を失った人のために、お金や食事を寄付している」といったエピソードも聞くことができ、ミャンマーの人々の中に根付く助け合いの精神や力強さに感銘を受けました。

オンラインを活用しての活動は初の試みだったため、戸惑うことも多かったですが、今後の活動の幅を広げていける良いきっかけになったのではないかと思います。

第2回 MJET 学生部日緬交流会議

2021 年2月 28 日、「MEC チームオーロラ」と二回目のオンライン交流会を実施しました。

まずはじめに、4年部員（牧島）から「観光発展が農村に与える影響―ミャンマー国バガン地域における農村の事例から―」というテーマで論文発表がありました。2018 年度に学生部が訪問した3つの村で実施したフィールドワーク（聞き取り調査）をもとにした鋭い分析と考察は、ほかの学生部員も大変勉強になりました。また、質疑応答では理事や賛助会員の方々から論文に関するアドバイスも聞くことができました。今後卒業論文の執筆を控える３年生の部員にとっては、特に有意義な時間でした。

次に、ミャンマーの学生よりクーデター後のミャンマーの現状に関する発表がありました。一歩外に出れば危険が身に迫るという状況の中で、どのように暮らしているかといった体験や、おおまかなクーデター発生までの経緯、抗議活動の内容なども聞くことができました。学生部員としても、自分が一緒にミャンマーで過ごした仲間が不安な毎日を過ごしていることに胸を痛めています。平和なミャンマーがいち早く戻り、国民が安全に団結して過ごせることを願ってやみません。

ミャンマー側のインターネット回線が不安定な状況ではありますが、今後もオンラインを通じた交流を可能な限り続けていきたいと感じています。

ミャンマー側の学生にとっても、MJET との交流が心の安らぎになってくれれば嬉しいです。

第１回 MJET/Nature Lovers Joint Forum の開催

10 月 25 日、MJET と Nature Lovers の第１回共同フォーラムを ZOOM 方式で開催しました。最初に Aung Din さんが「ミャンマーのエコツーリズムの可能性と展望」についてプレゼンを行い、次いで、14 名の参加者が質疑応答と自由討論を行いました。